

# 塩原の太山供養田植え



⑤田植飯

サバ、サツマイモ、タケノコ、フキ、椎茸、切干し大根、ゼンマイ、昆布などを煮染めたもので、2枚のホオの葉に包む。田植飯を包むホオ葉には殺菌作用がある。昔は、サバは貴重なもので田植の時にしか食べられないごちそうだった。



⑥田の神様を祀る  
サンバイヤシロ



⑦牛競り

しるかきの先頭「一番牛」を決める。競りは牛の品評会であり、昔は自慢の牛を披露しようと遠方からも参加があった。自分の牛に飼い主が高額なお金をかけたり、上位を獲得しようと白熱した競りが繰り広げられた。



⑧田植踊り



①種まき

田植を行う35～36日前に行われる。昔ながらの方法で、供養田の一角に苗代を作る。



②苗取り

田植前日、苗取り歌を歌いながらの作業。



③コガリ

ご飯を炊いたときにできるオコゲのことで、田植飯を炊いたときに釜の底にできたコガリを丁寧にはがし、供養棚の神職側の棚に供物として献じられる。



④お札

大山神社に納められる。裏面には供養田植に係わった人々の名前が書かれている。



⑩伏掻き

露払いが、腰の脇差しで田の入り口にはったしめ縄を切ると、牛と牛追い手が供養田に行列して「しろかき」をする。牛に農具は付けず、牛と追い手の歩行だけで代をかくため、非常に複雑な動きが求められる。「浪の形」「鶴の巣ごもり」「やはづ」など、多様な代掻きの形が記された本が残っている。



⑨棚くぐり

牛の進行方向右に神職、左に僧侶が座る。神仏混交の供養棚が大山供養田植の特徴の一つである。牛が供養棚に到着すると、神職側から牛追い手が小御幣を授かり、僧侶側からは「お札」と「般若経」が飾り鞍にくくりつけれる。牛には、大麦と大豆をつぶした「かいばと」と笹が与えられる。

滑稽な所作をしながら早乙女の後ろをササラと棍棒で擦りつつ自在に動き回る。時には棍棒で早乙女のお尻を突くような動作もする。これは家内安全、子孫繁栄を願うためのもので、太鼓田植えに興を添える。



⑫ササラスリ



⑪三把苗

三把苗の少女達は、供養棚で受け取った神苗を早乙女の頭取に一束づつ授ける。最初のひと植えはこの苗で行われる。供養田植の苗は、すべて神様から送られた神苗とされる。

現地公開の次の日、御札を持って多飯ヶ辻山の大山神社へ参拝する。供養田植の無事の終了の報告と僧侶側の棚の祭壇に供えられていた御札を納めることが目的である。

大本殿には、御神酒、笹、牛を引くのに使った「たづな」、子牛につける「むがたな」などが供えられる。準備が整うと、始めに般若心経、回向文が唱えられ、参拝者は順に前に出て線香を手向ける。参拝が終わると、全員で御神酒をいただき、本殿の中にお札を納めて下山する。お供えした笹は持ち帰り、牛に与えると、牛が病気をせず元気に育つと言われている。

⑭御札納め



⑬太鼓田植

サゲの頭取が上歌を歌い、早乙女は、それを受けて、下歌を歌いながら苗を植えていく。歌がひとつ終わると綱引きが綱を一幅分下げ、早乙女たちはこれに合わせて一步下がり、再び上歌と下歌のやりとりが行われる。サゲは前の畦に立って太鼓を叩く。間の休憩時には「ねりうた」が歌われ、サゲは早乙女の後ろの畦に移動する。